

視察報告書

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 委員会名 | 総務文教常任委員会 |
| 視察日時 | 令和元年11月7日(木)10時~11時半 |
| 視察先 | 川崎市キングスカイフロント(神奈川県川崎市川崎区殿町3-2-25) |
| 視察項目 | 殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの取り組みについて |
| 視察参加議員 | 井上健作、波多江貴士、堀田勉、藤井芳広、重富洋司、川上伸悟 |
| 視察随行職員 | 黒岩智樹 |

【視察概要】

○経緯

2004年に市内大手企業の工場が移転したことに伴い、その工場跡地を活用するために、2008年に整備方針を策定し、2010年より土地区画整理事業を開始。2011年には国際戦略総合特区に、2014年には国家戦略特区に指定され、様々な特例措置や支援措置を受けており、現在敷地内はほぼすべて企業誘致が済んでいる。

○概要

世界的な成長が見込まれるライフサイエンス・環境分野を中心に、研究開発から新産業を創出することを目指している。施設内には67の機関があり、従業員数は約1400人、そのうち研究者が約500人とのことである。

キングスカイフロントマネジメントセンターは、市の職員によって構成され、川崎市が全体の管理や運営を行っている。マネジメント部門の職員が7名で、その他企業誘致などを担当する職員も含めて計12名の職員がキングスカイフロントに専属している。事業費はソフト事業だけで年間約2億円とのことである。市直営にした理由は、何もしなければ倉庫やショッピングセンターなどになってしまいかねず、その場合交通負荷がかかりすぎてしまうため、市として目指す将来像の青写真を書き、それに沿った形で進められるよう市の直営にしたとのことであった。ただ、これまでの企業誘致が中心だったので市が誘導してきたが、今年ほぼすべてが埋まったので、これからは企業間や大学等とのネットワークづくりに力を入れる必要があり、来年からは市が100%出資している財団に委託してネットワークづくりを進めていくとのことである。

また、それ以外にも、市として、敷地内の電線の地中化の工事や、キングスカイフロントと羽田空港をつなぐ橋を建設するなど、インフラの整備にも相当な投資をしている。

○慶應義塾大学殿町タウンキャンパス

慶應義塾大学のタウンキャンパス構想の一環として、2016年国内3番目の拠点として、殿町にキャンパスを設置。住民や企業と一緒に研究することを目指している。

国の「リサーチコンプレックス推進プログラム」を活用し、研究開発、事業化支援、人材育成を通して、イノベーションが次々と創出される拠点づくりを進めている。

人材育成の一環として、市内の小学生、中学生、高校生の受け入れも行っており、現時点では年に一回見学に来る程度とのことだが、今後力を入れていきたいとのことである。

また、小学校5、6年生と中学生を対象に「ジュニアドクター育成塾」という1年を通じて研究しそれをまとめるプログラムも実施している。

【本市にとって活用すべき事項・課題】

○将来像の具体的なビジョンを描く

今回の視察先においては、サイエンスパークの運営を市が行っており、そこが本市と大きく異なるが、市の将来像を思い描いて、それに則ってデザインしていくという姿勢や視野は大変参考になり、本市においても、あるべき未来のビジョンを具体的に描いていくことが重要だと考える。

○人材育成、教育プログラムの充実

今回の視察によって、サイエンスパークがうまく回っていくというのはどういうことか実感することができた。それは、大手企業を誘致するというのではなく、新しい発想によって新しい産業や技術が生まれることである。そしてそのためには、自由な発想で研究する人材を育成することが不可欠であり、サイエンスパークの施設や設備や研究者などの資源を使って、小学生・中学生・高校生に向けたプログラムを実施し、未来の人材の育成につなげていくことがサイエンスパークの肝だと考える。本市においても長期的なビジョンを持って人材育成に力を入れていくべきだと考える。